

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年12月27日

【評価実施概要】

事業所番号	4271102339
法人名	有限会社 やまぐち企画
事業所名	グループホーム あかり
所在地	長崎県長崎市上黒崎町6 6 5 - 1 (電 話) 0959-25-0057
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成19年12月18日

【情報提供票より】（平成19年4月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤7人, 非常勤2人, 常勤換算5.3人	

（2）建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ～ 2	階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

（4）利用者の概要（平成19年4月1日現在）

利用者人数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82.5 歳	最低 66 歳	最高 98 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	日浦病院・カリタス外海・中央診療所・羽野内科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな丘の中腹にあり、居間や居室等からは島々や海が見え、眺めの良い場所にある。利用者の表情は穏やかであり、職員との会話も多い。理念にも掲げてある通り、利用者・地域・職員が「うれしい、楽しい、よかった」と共感できるような介護を目指している。地域の行事に積極的に参加しており、近所の住民から野菜等を分けてもらったり、地域の一人暮らしの高齢者から具合が悪い時に連絡があり病院に連れていったりと、地域に根ざした介護を行っている。グループホーム連絡協議会や他のグループホームと共同勉強会を開催したりと同業者との交流も深い。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 栄養士の指導に関する課題については、職員やかかりつけ医と検討したが、カロリー計算よりも利用者が好きな物を食べさせてあげたいという結論に至った。市町村との関わりについては、書類を市町村に直接持参したり、わからないことは電話で聞く等、連携が取れるようにしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 一つ一つの項目の作成については一部職員と管理者が行っており、疑問点等の自己評価の確認は全職員で行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議では前回の外部評価の結果について報告され、意見交換が行われている。その他、利用者の状況説明や今後のホームの課題について話し合われており、ボランティアの受入実施や広報誌の作成について検討している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 家族の意見や苦情については、来所時に聞き出すようにしている。介護計画作成時に、家族の意見や要望を取り入れるようにしている。現在までの所、特に苦情は出されていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 来年度より自治会へ加入するようにしている。保育園との年2回の交流や地域の運動会、消防団の行事等を通して地域住民と利用者の交流や連携が図られている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「楽しい・うれしい・よかった」という理念であり、文言自体には地域との関係性を表現していないが、日々の関わりを通して利用者だけでなく、職員や地域住民にも共感してもらえるような理念になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議やリーダー研修の際に理念の確認をしている。職員同士がうまくいかないと、利用者と職員の関係もうまくいかないと考えており、理念を活かした介護ができるように職員同士の声かけや相手を思いやる気持ちを大切にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園とは七夕やクリスマス会時に交流がある他、鬼火や地域の盆踊り、掃除に参加している。散歩時には地域住民との会話がなされている。来年から自治会に加入するようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価については、職員会議で報告がなされ、改善に向けての話し合いが行われている。今回の自己評価については管理者が主に行っており、疑問点等は職員間で話し合われている。	○	自己評価を全職員で行うことで職員の介護への意識の統一や見直しが可能になるため、全職員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に努めることを期待したい。

グループホームあかり

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回程度開催されており、メンバーは法人の代表、施設長、主任、家族代表、自治会長等である。これまでの討議内容は外部評価の結果報告や現在の利用者の状況、今後のホームの課題等であり、議事録も作成されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	提出書類はなるべく市の担当者に直接持参し、ホームの実状や取り組みを折りに触れ伝えている。相談事項が発生した際や制度の改正等でわからない時は電話で連絡を取ったりと、市町村との連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来所した際に利用者の暮らしぶりや健康状態を話し、行事の際の写真等を渡している。遠方の家族には写真と共に、暮らしぶりや健康状態を示した文書を送付している。金銭については月1回の請求書発行時に立替で支払った品物代の領収書を添付して、出納を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の設置はないが、年に1回敬老会の後に家族会議を開いて意見聴取の場を設けている。入所時や面会時等に何でも言ってもらえるような雰囲気作りをしているが、重要事項説明書にはグループホーム内の苦情受付窓口しか記載されておらず、苦情受付窓口等の説明も繰り返し行われていない。	○	職員と家族が密接な関係にあるグループホーム内では、意見や苦情があっても職員には言い出しにくいという状況も考えられる為、入所時だけでなく面会時やたより等で外部にも意見や苦情を表せる機会があることを繰り返し説明し、出された意見等を運営に反映させていくことに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職はこれまでほとんどない。退職した場合でも近所の住民である為利用者との顔馴染みの関係は続いており、利用者へのダメージを最小限に抑えるように引継を丁寧に行っている。		

グループホームあかり

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会の研修の他、研修計画を基に独自に13グループホームで研修会を月に1回開催しており、救急蘇生法や応急手当等の研修を行っている。研修参加には正職員だけでなく、パート職員にも参加している。研修内容については、職員会議の際に報告されており、内容が共有されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市グループホーム協議会や13グループホームでの研修会を通して、同業者との情報交換や交流を深め、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所する際には始めに本人や家族に見学してもらい、利用者の入所までの経緯や職歴等を利用者本人や家族に聞きアセスメントを作成している。早くホームに馴染んでもらえるよう利用者にどのように呼んで欲しいか尋ねたり、他人行儀にならないように同じ目線で会話するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野や趣味について家族や関係者から情報を得ているが、利用者ができなくなっている場合も多い為、日々の会話や生活の中から利用者の得意分野等を汲み取るようにしている。職員が利用者に励まされたり、支え合う関係を築いている。お盆の迎え方等昔からの慣習や生活の知恵を利用者から学んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の会話が多い為、会話を注意深く聞き、言葉の端々から利用者の思いや意向を把握するようにしている。表現困難な場合には日々の利用者の行動等から本人本位の立場になって考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	月1回のカンファレンス時に日々の生活記録等を基に全職員で話し合っており、個人別の長期・短期目標を作成している。介護計画を家族に提示し確認を取り、追加して欲しい事項等を検討してもらうようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に合わせて、介護計画に追加する事項等が発生した場合には介護計画の見直しまでの時間が長い場合には作り直し、短い場合には追加するようにしている。介護計画には家族の意見欄があり、確認の際にサインをもらう他、意見等を出してもらっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入退院時の送迎や利用者の入院時の洗濯物をホームに持ち帰って洗濯したり、利用者が行きたいと望む場所（お墓参りやお寺）へ連れて行ったりと、本人や家族の希望に沿って柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人や家族の希望を聞き、意向に沿った支援を行っている。入所前からのかかりつけ医がいる場合には、遠方であっても職員が付き添って支援している。かかりつけ医がいない場合には、家族の許可を取り、グループホームの協力医療機関での受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員と話し合い、事業所としてどのように利用者や家族との意思確認をしていくか、医療機関との連携を図っていくかについて重度化に伴う指針を作成し、家族に確認・同意を得ている。看取り介護に向けた学習会や講演会に参加している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録等については、保管場所を定め外部の人に見られないようにしている。職員採用時に個人情報の取扱いに関しての同意書を取っている。排泄時や着替え時等はドアを閉めて対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	話す声の大きさや視線を合わせる時の高さ等、利用者のペースに合わせるようにしている。散歩したい・外でお祈りしたい等の利用者の希望には、天気や利用者の健康状態に応じて支援するようにしている。		

グループホームあかり

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と一緒にテーブルに座り、会話をしながら食事をしている。噛む回数が少ない利用者には他の利用者よりも細かく刻む等、状態に合わせた支援をしている。食事の準備や後片づけを利用者と職員が一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間帯は決まっているが、その日以外でもシャワー浴は可能になっている。入浴を嫌がる利用者にはタイミングをずらして声かけをしたり、体を拭くことで対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所時のアセスメントや利用者の日々の暮らしぶりから、利用者が喜ぶこと・やりたいことを見いだせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせて近隣へ散歩に出かけている。行事計画を作成し、月に1回程度は全員で外出するようにしている。車椅子の利用者も日向ぼっこをする等、可能な限り外出している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状態を見て、どうしても施錠しないと危ないという場合にのみ医師と相談し、家族の了解を得てから施錠している。現在は利用者の状態が落ち着いているので、夜間のみ施錠し、昼間は見守りで対応している。		

グループホームあかり

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	災害予防計画書や緊急時マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。消防署立会い指導の際には、避難経路の確認や消化器の使い方について指導を受けている。鬼火や草切り等に消防団の行事に参加する等日頃から交流に努めており、緊急時に協力が得られるようホームの平面図を渡している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事量を、排泄チェック表にて水分摂取量の確認を記録している。家族からの情報の他、生活していく中で利用者の嗜好を把握している。専門家によるチェックはないが、栄養バランスを考えた食事を提供できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の装飾や料理で、季節感を取り入れるようにしている。カーテンで明るさを調整したり、テレビの内容で利用者が怖いと感じるものがある際には、利用者を違う場所に連れて行く等、利用者が心地よく生活できるように支援している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の持ち込みについては制限されておらず、居心地良く過ごせるように支援している。居室内は利用者が持ち込んだ馴染みの物や写真等が飾られており、それぞれの居室で違った雰囲気である。		

※  は、重点項目。